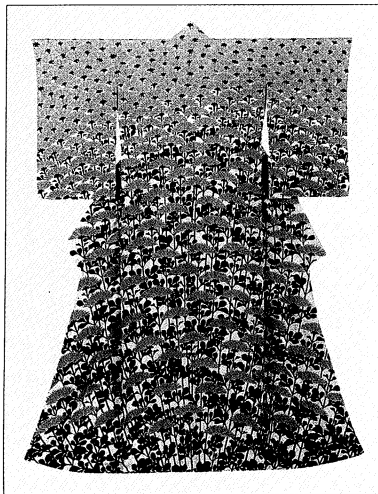


「現代の染織 — 素材と技の美」展

会期 10月30日(土)~12月5日(日)
会場 県立美術館 企画展示室



▲森口華弘「縮緬地友禅訪問着菊」1970年

観覧料

一般・大学生 820 (660) 円
 高校生 610 (460) 円
 小・中学生 410 (300) 円
 ※()内は20名以上の団体料金
休館日
 毎週月曜日、11月4日(水)、24日(水)

■主な出品作家

平良敏子 喜多川平朗 志村ふくみ 柳悦孝 芹沢銈介
 小宮康孝 前田雨城 森口華弘 福田喜重 下田直子 他

日本の染織は、素材の多様性、技術の確かさ、意匠の斬新さなど見るべきところが多く、生活の用にかなうただけでなく、長い間に私たちの思考や美意識にも大きな影響を与えてきました。

現在私たちはあふれるばかりの染織品に囲まれ、自由に選択し生活を装うことができます。しかしながら、多様な素材、自由な表現が繊維や布の可能性を広げる反面、素材そのものの特質や、それを生かすための人々の知恵と手技を日常生活の中に見い出すことが難しくなっています。

このたびの展覧会では、布を構成する最も基本的な要素である「素材」と、それを生かす「技」に焦点をあてて、現在の日本の染織を見直してみようとするものです。

「素材」では、私たちの身近にある麻、木綿、絹、毛、紙などを取り上げ、その特質を最大限に生かした創作を続けている人々の作品を紹介いたします。

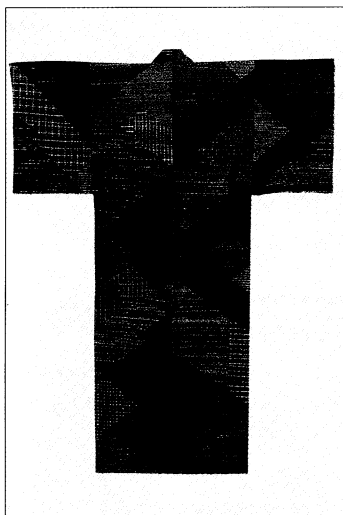
「技」では、編む、織る、染める、刺す、縫うという行為を通して、様々な独自の表現を試みている作家の作品を紹介します。

糸を作り、織り、染めるといった行為が日常的なことではなくなりつつある現在の私たちにとって、素材そのものの美しさ、人間の英知、手技の意味を再確認する機会になると考えます。

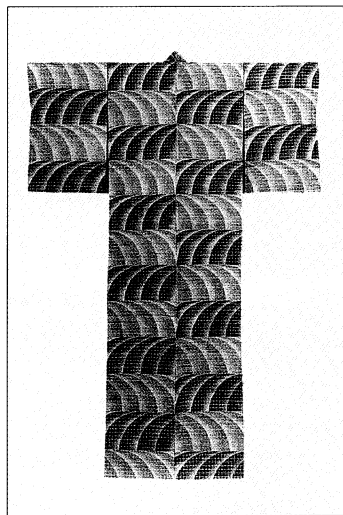
講演会

「一色一生」

染織家 志村ふくみ氏
 十一月七日(日) 十三時
 美術館講堂・入場無料



▲志村ふくみ 絛織着物「切継 光砥」1992年



▲宗廣力三「絛織着物 山」1987年